

4-1-10 周産期診療部

4-1-10-1 不妊診療科

1. 概要、特色

卵の発育には休日も祝日も存在しない。妊娠成立のための最適なタイミングを見つけるためには休日に関係のない連続した卵胞発育モニターが必要である。当科の最大の特色は患者様に最善の医療を提供するため、公的なセンターとしてははじめて土日の休日や祭日に関係なく不妊総合診療ができる体制を整えたところにある。また不妊診療は一般の病院ならびに診療所では、ともすると流れ作業的な、いかえれば患者様にとっては inconvenient な環境にあるのが我が国の現実である。当科はナショナルセンターとして我が国の不妊診療のスタンダードを確立すべく、不妊治療を望むカップルの診療に十分な時間をかけ、不妊診療にとってはもっとも大切なところのケアに配慮し診療を行うよう努力している。また、他の施設で治療を放棄されてしまったような難治性不妊症例についても、母性内科ならびに不育診療科、産科、婦人科、胎児診療科、遺伝診療科など当院の他科の協力を得ながら決して諦めることなく治療方法を提示し、カップルと相談しながらお互いに納得のいく診療が行えるように努力している。

2. 診療活動、研究活動

	2002年										2003年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
子宮卵管造影検査	0	3	12	12	6	5	18	16	19	12	9	16	16	
人工授精	0	0	1	1	3	3	9	14	14	10	9	15	15	
内視鏡下手術	0	0	0	2	0	7	1	3	6	6	6	5	6	
開腹手術	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	2	1	1	
採卵(体外受精)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	

	2003年										2004年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
子宮卵管造影検査	18	22	25	23	19	28	24	28	26	21	22	26	
人工授精	17	16	24	32	28	30	33	33	35	28	31	40	
内視鏡下手術	6	5	7	8	6	5	7	6	6	7	4	8	
開腹手術	1	1	0	1	1	1	3	1	2	3	3	2	
採卵(体外受精)	4	5	7	1	6	2	2	6	2	7	11	7	

上記の検査及び治療実績が示すように、外来患者数の増加に伴い当科で行っている卵管造影などの検査、人工授精や体外受精といった生殖医療、腹腔鏡下手術などの手術件数が昨年度に比べ増加傾向にある。また2004年2月より以前より実施していた体外受精・胚移植に加え顕微授精による治療も開始した。最近の外来受診患者の不妊原因、年齢、治療歴を考慮すると体外受精、顕微授精といった生殖補助医療技術(assisted reproductive technology, ART)を伴う治療は2004年度はさらに大きく増加する見込みである。